

「薬剤師飽和時代」の可能性が低くなった 落ち着いてキャリアデザインをしよう!!

薬系進学データが裏付ける 薬剤師飽和時代の不到来

就職説明会を8月に実施したイベント会社があった。その会場に薬学部生が多数訪問し、人事担当者は「今年は学生の動きが速い」と好印象をもっていた。

薬学部生は「薬剤師飽和時代」が到来するという噂に影響されて早めに就活を開始したようだ。しかし「薬剤師飽和時代」の根拠はなく、あるとすれば、薬学部の実定員や入学者が増大したことによるイメージだけだ。

「薬学生が増えたのだから卒業生も増える。その結果、薬剤師国家試験の合格者が増加する。薬剤師は飽和するはずだ」。そう考える考える人が多い。

本誌も飽和時代が来るかもしれないと心配した時期もあった。しかし本誌は、就職媒体のほかに「薬系進学」という薬学部に特化した大学入試情報誌を発行している。

その編集で各大学には詳細なデータをご提供いただき、ほかでは入手できないデータを蓄積している。そのデータをまとめていくと、「薬剤師飽和時代」は来ない可能性がでてきた。

皆さんに安心して就活を進めてもらうため、まず薬剤師飽和について書きたい。

そして根拠のない噂に流されない就活に加え、薬剤師国家試験の準備をしっかり行うことも提案する。

回	受験者	合格者	合格率
80	8,790	7,055	80.28%
81	8,825	7,473	84.88%
82	8,747	7,367	84.22%
83	8,548	7,010	82.01%
84	8,505	7,327	86.15%
85	8,620	7,625	88.46%
86	8,208	6,901	84.08%
87	8,367	7,412	88.59%
88	8,345	7,387	88.52%
89	8,504	7,349	86.42%
90	8,626	8,047	93.29%
91	8,455	7,200	85.16%
92	8,791	7,525	85.60%
93	10,025	8,652	86.30%
94	10,733	9,105	84.83%
95	1,318	523	39.68%

薬剤師飽和がない理由1 共用試験合格者から見る

2009年、全国の各薬学部で初めての共用試験が実施され、国公私立大学合わせた合格者は9,338名だった。

多くの薬学部が共用試験の合格を進級ルールにしているため、9,338名が5年次に進級したと考えていいだろう。

●私大薬学科の学生数

私大入学者数	11,301名
3年次在籍者数	10,227名
共用試験合格者数	8,645名

私大の薬学科で5年次に進級できたのは8,645名だ。5年次から6年次への進級は、留年はないと考えられる。ただし卒業試験の結果次第で卒業生は減少することになる。下のグラフは各薬剤師国家試験の受験者の推移。2012年の卒業生は過去の受験者数に近づいていっているようだ。

※入学者数、3年次在籍者数には、一括募集校の学生を含む

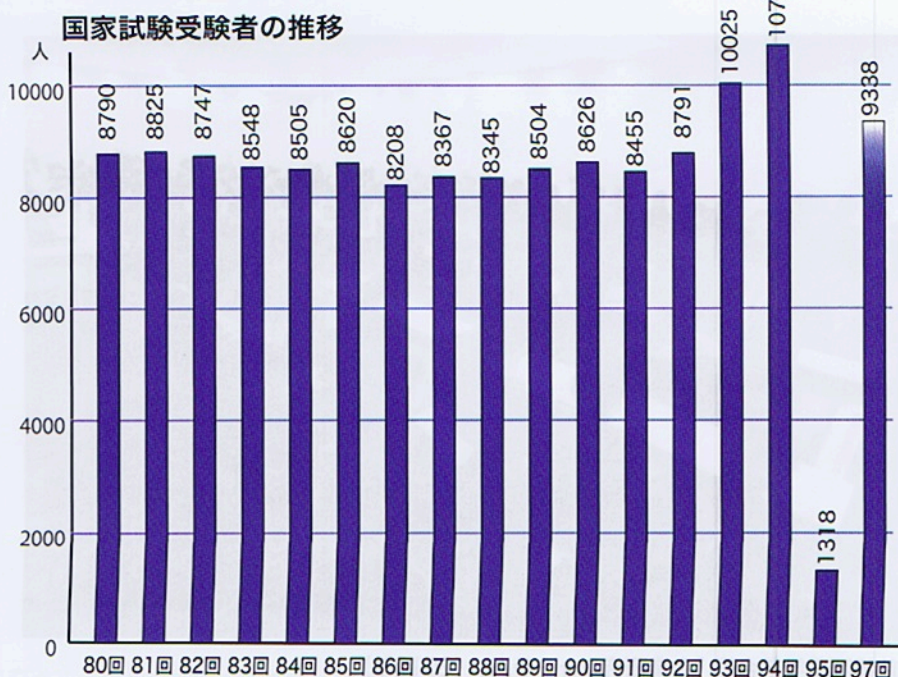
薬剤師飽和がない理由2 薬学部人気の低下傾向

薬学部は「4年間で国家試験受験資格が得られる」という最大の魅力を失い、私立大学薬学部の志願者は年々減少している。

●私立大学薬学部 志願者の推移
2006年の志願者 84,559名
2007年の志願者 78,512名
2008年の志願者 78,636名
2009年の志願者 75,048名
2010年の志願者 69,438名
5年間で1万5,121名の減少だ。また定員を充足しない大学もでてきた。

●定員を充足しない薬学部
2008年入試 17大学
2009年入試 19大学
2010年入試 17大学
定員充足率が悪化し、学力レベルも低下すれば、将来の薬剤師国家試験の合格率も期待できなくなる。

※定員充足率は、手続き上の誤差で許容範囲にある大学を除いた



国立大学薬学部が どこまで頑張るだろう

薬学部人気の低下には、6年の修業年限と高い学費負担が影響している。受験生は学費負担の軽い国立・公立の薬学部受験に流れる傾向がある。

受験生は「私立大学は学費が高く、国立大学はハードルが高い」といい、国立大学の薬学科には優秀な学生が集まる。

大学進学時に6年制と4年制の違いが分からず、「国家資格が取得できるのなら6年制の方に…」という選択をした学生に出会うことが多い。研究志向が強い国立大学では、6年制の学生にも研究職を狙うものがあるのである。

薬剤師国家試験の準備・指導では、国立大学にも頑張してほしい。97回の薬剤師国家試験結果が楽しみだ。

そして国立大学卒業生が薬剤師職を希望するか、実際に就職先として薬剤師職を選択するかが薬剤師供給に大きな影響を与えると考えられる。

薬剤師飽和がない理由3 薬剤師国家試験が難しくなる

薬剤師国家試験は足切りが設定されるなど難しくなる傾向がある。不得意科目があれば早めに解消しておこう。

薬剤師国家試験出題制度検討会・報告書をもとに新しい薬剤師国家試験の出題数や足切りなどを下表にまとめた。

また報告書を見ると禁忌肢の出題を検討するとしている。禁忌肢とは薬剤師なら絶対に間違ってはならない問題。薬剤師にはいけない人を割り出す出題だ。

新しい薬剤師国家試験では、従来のように全体の65%に正答すれば合格できる試験ではなくなる。しっかりした国試対策をたてて必ず合格するように頑張ろう。

薬剤師国家試験に精通した人の中には、新しい薬剤師国家試験では合格率が低下するという人がいる。仮に9000人が卒業。薬剤師国家試験を受験して、合格率が80%なら合格者数は7200人だ。

さらに合格率が低下すれば薬剤師不足が加速する。薬剤師という資格の価値が高まることになる。地底人の逆襲は既に始まっている。→58ページ

薬剤師飽和がない理由4 進路の多様化

編集部では、製薬企業に6年制出身者に対する処遇を聞いた。企業の対応は3つに分かれたが、いずれの場合も6年制出身者を修士待遇とする企業が多い。

臨床開発職の募集対象は、大学院修士課程修了以上だったが、6年制出身者も対象となる。一部には本人がもつ能力次第(研究力)で研究職の採用も考えるという企業もある。大学院修士と同等の進路も開かれ、学生からみれば職種選択の幅が広がった。

1. 修士待遇の会社

学歴は学士だが獣医学部出身者と同じ扱いとする。給与など修士と同じ待遇で、研究職としての採用も可能性がある。

2. 処遇は修士だが、研究職採用は難しい

大学院修士課程の学生は、朝から晩まで実験をし、また学部生の指導も体験している。「実習中心の6年制」と「研究に専念してきた修士課程」を一緒にはできないという。6年制出身者は研究職の採用は難しいが臨床開発職での採用はある。

3. 学士と修士の間という会社

学歴は学士。しかし6年間学んでいるため学士と修士の中間の処遇を考えているという会社だ。

企業の初任給は低く感じるが、手当などが手厚い。しかも修士課程と同等の待遇で6年制出身者を迎える会社が多かった。企業で働いて独立資金を蓄え、MRの立場で臨床を経験して薬剤師に転職することも可能だ。あらゆる可能性を追求してみてもどうだろう。

新しい薬剤師国家試験の出題数

	薬理	薬剤	病態薬物治療	実務薬学	基礎薬学 (物理・化学・生物)	衛生	法規・制度・倫理	合計	合格基準 (足切り)
必須問題	55				15	10	10	90	70%(63問以上) (各領域の50%)
一般問題 (薬学理論問題)	15	15	15		30	20	10	105	〈各領域の35%〉
一般問題 (薬学実践問題)	実務薬学に3領域の組合せ問題 60			20	実務薬学と3領域の複合問題 70			150	
合計	180				165			345	